

モニタリング社会との共生（実習の進捗発表）

著者	市川 雅也, 奥村 紗名, 橋本 航汰, 廣田 拓哉
雑誌名	発表予稿集 : 情報学シンポジウム
巻	2018
ページ	10
発行年	2018-12-22
出版者	情報学シンポジウム2018実行委員会
著者版フラグ	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10297/00026604

モニタリング社会との共生

市川雅也，奥村紗名，橋本航汰（情報科学科），廣田拓哉（情報社会学科）

我々は 10 年後の情報技術とそれに伴う社会問題について，情報社会を生きる人々の価値観や社会の規則が技術普及の妨げになり得ると予測する．本研究は「モニタリング社会」に焦点を当て，未来の顔認証と警備ロボットの技術と社会的問題点について調査を行った．顔認証の分野では従来の 2D の認証方法から 3D へと進化しており毛穴や皮膚の質感を含めた顔の凹凸など，より詳細な認証が可能となっている．一方で顔認証によって管理される通院歴や買い物情報，防犯登録など個人情報の不当な蓄積や情報漏洩のリスクが問題となっている．警備ロボットに関してはミリ単位の認識から動作を検知する技術が導入されているほか，表情や振動から精神状態を判断する技術が研究されている．一方で従来の監視カメラに対し自立して動く警備ロボットによる萎縮効果の増大や精神状態の読み取りによる人間への精神的圧迫が懸念されている．

以上の結果から，情報技術は一般化するために社会の規格を満たす必要があるが，人々が予め未来の情報技術に見合った価値観や倫理観を身につけると同時に，未来の情報技術のもとでも個人のプライバシーや権利を効果的/効率的に守れる規則づくりなどの社会体制を予め整えておくことにより，新たな情報技術の円滑な普及が実現できるのではないかと考える．

（学習マネジメント・3 クラス）